

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区奥沢 2 - 3 - 1 1
園名	奥沢保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木育～木のぬくもりを感じ、遊び、自分の世界を広げよう～

<テーマの設定理由>

・まずは、木の遊具に触れ、興味を示し、遊びが発展していくように、あそび環境を設定したいという思いがあった。職員がテーマ別研修で「積み木」をテーマに学び、実践を始めたことで、子どもたちのあそび方にも変化が見られ、イメージを形にする楽しさや、継続して遊ぶ姿が見られた。今後さらに木の遊具を取り入れ、環境を整え、子どもたち一人ひとりの世界を広げていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

- ・年間を通じ、毎月 2 回ほど、幼児クラスを中心にホールで積み木の日を設けた。
- ・秋ごろから、遅番の時間帯も幼児クラスを中心に積み木あそびを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・積み木遊びの日は、ほかの玩具は設定せず、広々と自由に遊べる空間を設定した。
- ・ホールでの遅番で積み木遊びをする際には、ほかの玩具で遊んでいる児らとスペースを棚などで区切り、どちらの遊びも保障できるよう設定した。また、作った積み木の作品を、その日で片づけるのではなく、「とっておきたい」気持ちを大事に、次の日の午前中も継続して遊ぶことができるようにした。
- ・きれいに積み木が収納されていることで、使いたい積み木が一目見てすぐわかり遊びにも没頭できるよう、可動式棚や収納ボックスを購入し整頓した。
- ・子どもたちが進んで片付けを行えるよう、写真をボックスに貼り、誰が見てもわかりやすいよう工夫した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・主にホールで幼児クラスが異年齢でかかわりながら積み木遊びを楽しむ。保育士も一緒になり、積み木でビルを作ったり、年長児が作った作品に憧れをもったりと、かかわりの中でさらに興味が広がっていた。また、作った作品を写真で撮り、だれがどんな作品を作ったか、保護者や子どもたちも見るように冊子にした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



子1：こんなに高くなった！
子2：倒れないようにそっとね
子1：お人形さんにとってこようかな、置きたい！
子3：（人形を置くと）窓から外を見ているみたいだよ
子2：もっと上に置きたいから、椅子持ってくる
子1：こんなに高くなったよー
保：すごい高くまで作ったね。
子2：とっておきたい
保：明日も続きやろう！

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

色がついた鮮やかな積み木や、形が多い積み木など、様々な積み木が増えたことで、アイデアやイメージがさらに広がっていた。また、年長児が積み木でお城や、水族館、映画館などを作り、楽しんでいる様子に、他クラス児も憧れをもったり、一緒に加わったりする中でかかわりが増えた。

憧れから、さらに「こんなことをやってみたい」と興味、アイデアも広がっていた。作った作品を写真に撮り、展示したことで、保護者の方にも共有できた。

また、子どもたちのあそびが広がるように保育の環境を見直し、環境の向上に努めたことで子どもたちの姿にも変化が感じられ、実践が保育士の学びにもつながった。

今後も継続して取り組む中で、実践を積み重ね、子どもたちがわくわくするような保育の環境の向上、保育士の学びを深めていきたい。